

<基本情報>

所在地：福岡県嘉穂郡桂川町

<農場概要>

- 12.5ha (有機JAS認証未取得)
- 労働力7名 (古野氏の家族6名、従業員1名)
- 有機農業により水稻、各種野菜及び畜産を営む



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 学生時代に有吉佐和子著「複合汚染」を読み影響を受け、雑草防除と地力維持に関心を持ち、農薬不使用の有機農業を実践した。有機農業は環境に優しく、健康によい。家族が食べるために作ることが最大の目的であり、同じものを消費者に届けている。

<販売について>

- 基本的に近隣の消費者へ年間契約の直接販売が多いが、そのほかにインターネット販売等も行っている。
- 農業は成長するとともに、維持することが大事であることから、変化に応じて様々なことに対応しながら、地元の人々に直接販売することを続けていきたい。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

● 病害虫、除草対策

水稻については、1988年から開始した「合鴨農法」の体系化を実施することにより、害虫の駆除と除草を行っている。野菜栽培については、水田輪作による防虫、耐病性の強い品種の作付け、高畝栽培、排水対策を実施することにより病虫害対策を行っている。また、独自に開発した除草農機具（ホウキング）を使用し除草することで、除草時間の大幅な削減を実現している。

● 土づくり

自家製の堆肥（籾殻、鶏ふん、牛ふんを堆肥舎でかくはん・発酵）を使用することで土づくりを行っている（野菜畑については、10a当たり5tを投入）。このことにより、**慣行栽培と同程度の収量を確保**している。

<苦労しているところ>

- 地球温暖化により、害虫や雑草が増加してしまい、野菜づくりに影響がでていること。

<今後の対応>

- 地域の農業を引継ぐ者が少なく、農地の管理委託が増え、今後、自分の経営面積は増えると予想されるが、できる限り家族で有機農業及び地域農業を維持していきたい。

<現場の課題>

- 地域の担い手確保と地域社会の維持。



【お問合せ先】TEL.0948-65-2018

ホームページ<http://aigamokazoku.com/index.html>

<基本情報>

所在地：福岡県田川郡赤村

<農場概要>

- 面積：2.6 ha (全て有機JAS認証)
- 従業員：25人 (役員を含む)
- 水稻及びトマト、ミニトマト、セルリー等 (ハウス栽培)
- 生産したトマトを原料に加工品を製造・販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 人間・環境に優しい農業の創造とこのような農業を広く社会にアピールし、農業の社会的役割や農業者の社会的地位の向上に貢献すること、地域の生産の核となり地域再生・地域雇用を生み出し地域のモデルとなることを目的として有機栽培を開始。

<販売について>

- 販売する全商品が有機JAS認証品。生産したトマトを使用し加工品(ケチャップ等)の製造・販売も行っている。
- 有機JASの小分業者認証を受け、販売先からの要望に沿った形態で自社包装対応を行い、好評を得ている。
- 販売先はグリーンコープを中心に、イオングループ等約20社と直接取引(販売先への品数・ロットについては、連携を組む生産法人からの仕入れにより確保している)。
- 有機セルリーは、大手スーパーから直接取引のオファーが入るまでになっている。
- 経営管理ソフトを導入し、生産コスト等を管理することで、販売先との価格交渉を実施している。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
病害虫の対策としては、有機農産物にも使用可能なBT剤、土壌改良剤、天敵を使用。トマト等の受粉にはクロマルハナバチを活用。
- **雑草対策**
施設内ではマルチシート、除草は機械と手作業。
- **土づくり**
牛糞2：草8をベースに有機物や乳酸菌等を混合した堆肥を使用して土作り。5年程度で病気の減少と慣行栽培と同程度の収量達成。

<苦労しているところ>

- 資材費、運送経費等の抑制。

<現場の課題>

- 資材・燃料費、人件費、物流経費などの高騰への対応。
- 地域の耕作放棄地増加等の荒廃農地対策。

<今後の対応>

- 生産技術体系を確立し、安定的な生産を確立するとともに、次世代へ引き継げる経営の確立。
- 生産規模を拡大し、収益の向上を目指す。

【お問合せ先】TEL.0947-62-3349

会社ホームページ <https://www.torigoe-network.com/>

<基本情報>

所在地：福岡県朝倉市

<農場概要>

- 2.8ha（有機JAS認証未取得）
- 常時雇用3人、臨時雇用1人
- 水稻（主食用米、米粉用米、酒米）



兵四郎ファーム



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 当時、（株）味の兵四郎※を経営していた社長が、平成16年に友人からもらった**有機栽培米の美味しさに感銘**を受けるとともに、**環境問題に取り組む必要性**を感じ、有機栽培を開始。
 - 農地取得を機に、平成26年に（株）兵四郎ファームを設立。
- ※（株）味の兵四郎は、あごだしを中心に素材と美味しさにこだわった商品の製造・販売を行う会社。

<販売について>

- 料理・菓子等で幅広く利用できる米粉へ加工し、（株）味の兵四郎の直営店舗がある百貨店や同社のwebサイト等にて販売。
- 信頼する有機農業者から調達した米を「兵四郎米」のブランド名で販売。

<米粉用米の品種「笑みたわわ」について>

- 健康志向の高まりや食生活の多様化によるグルテンフリーの需要を見込み、パン・菓子・料理用に特化した多収品種「笑みたわわ」を栽培。米粉100%で作るパンは、もちりふんわりとした食感で好評。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
塩水に浸して、種もみを入念に選別した後に、酵母菌を施用。
- **雑草対策**
抑草対策として、代かきを丁寧に3回、収穫後から田植えまでに耕うんを4～5回以上実施。
- **土づくり**
土壌分析・施肥設計に基づき、科学的にアミノ酸肥料やミネラルを供給。

<苦勞しているところ>

- 裏作を行わず、収穫後も土づくりを徹底して行うため、手間暇がかかること。

<今後の展開>

- 自社でパンを製造・販売できるよう、パン工房を兼ねた直売所を建設するとともに有機農業の良さを発信できる取組みを実施。
- 輸出に挑戦し、精米直後の美味しさや米粉の製造時の美味しさを活かし、価値ある商品づくりを図りたい。



【お問合せ先】TEL. 0946-28-7587

ホームページ：<https://hyoshiro-farm.co.jp/>

<基本情報>

所在地：長崎県五島市三井楽町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場48ha (かんしょ、大麦、小麦)
- 有機JAS認証のかんしょを加工し、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋を製造



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 大阪市でコンサルティング会社に勤務し、将来、農業コンサルティングに従事したいと考えていたところ、義理の祖父の出身地である当地で農地を取得したことにより10年前に営農開始。当初は、農薬や化学肥料を低減した栽培に取り組んでいたが、土づくりや生物多様性保全の取組、他産地との差別化、加工品の付加価値向上などを考え、平成30年(2018年)に有機JAS認証取得を開始し、令和2年(2020年)には、全ほ場の有機JAS認証を取得。

<販売について>

- かんしょ(青果用及び加工用)は、全国の小売店、飲食店、生協、通販会社、大手コンビニ等へ販売。大麦、小麦は、卸業者に販売。
- 高付加価値化として、かんしょを、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋「おしゃぶー」や「ひとくち焼き安納芋」、和洋菓子用原料として「かんしょペースト・パウダー」に加工し、自社で製造・販売。同パウダーを活用し新たな商品として腸活サプリメント「.hel(ドットヘル)」を開発し販売。



<輸出について>

- 商社と協業し、国内で取引需要が少ないかんしょの規格品(S~2S)を、オーガニック需要が高い香港を中心に輸出。

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
自社製造の天然由来の液肥や環境にやさしいBT剤を散布することで、病害虫被害を抑えている。
- **雑草対策**
かんしょと麦の輪作を実施。春まで麦を栽培することにより夏季の雑草抑制に繋がり、機械除草の回数を抑えている。黒マルチシートを、栽培畝に加え通路部(畝間)にも敷設することで除草作業の負担を軽減している。
- **土づくり**
3年に1度の頻度で土壌診断を行い、必要なミネラル等を施用。肥料(液肥)は、有機JAS適合資材(納豆菌、菌糸剤)を中心に、自社の堆肥工場で製造した肥料を使用。



<苦労しているところ>

- 人口減少により、耕作放棄地が増加。これまで10haに及ぶ耕作放棄地を再生したが、再生作業以上に苦労したことは、農地の地力向上に時間を要すること。



<今後の展開>

- 五島市三井楽町は、20年間で3割以上人口が減少。耕作放棄地の解消、移住者・市民が働きたい会社づくり等により地域に貢献し、「オーガニックをプラットフォームとした街づくり」を将来のビジョンとしている。2026年には、農業と観光を融合させた地域活性化の取り組みの一環としてリゾートホテル(レストラン併設)の開業を予定している。

【お問合せ先】TEL. 0959-84-2989

ホームページ：<http://osyaburi.jp/index.php>

<基本情報>

所在地：熊本県阿蘇郡南阿蘇村

(平成29年度熊本県農業コンクール 優秀賞(地域農力部門)受賞)

<農場概要>

- 自然農法で米(酒造好適米)作りに取組む生産者の合同会社
- 令和7年産は14名で山田錦5haを栽培
- 全国の酒造メーカーに出荷し、できた酒はふるさと納税でも販売



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 代表(高島和子氏)は、南阿蘇村に移住し自然農法による山田錦の栽培に取り組むが醸造に必要な量が確保できず、村内で栽培賛同者を募り、平成22年に喜多いきいきくらぶを発足。令和5年に法人化。
- 南阿蘇は特別栽培の取組農家が多かったこと、**自然農法の酒米が比較的高単価であった**ことが、賛同者の継続栽培への意欲に繋がる。

<契約・販売について>

- 全量買上げや醸造した酒の地元販売を条件に蔵元と契約。
- 実需者から「**碎米が少なく歩留まりが高い。作柄の影響を受けにくい安定した品質。**」と高評価。好条件での取引を実現。
- 肥料・農薬等の生産資材の購入費が抑えられ、慣行栽培と比較して利益を実感できる。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫および雑草対策**
自然栽培により圃場内に害虫を退治する天敵が生息。除草機(手押し式、動力式、乗用)を使った除草。
- **土づくり**
収穫後の稲わらを裁断し、土壌に還元。苗箱には土とくん炭のみを使用し、圃場には有機質肥料を含め、肥料を投入しない。

<栽培上の工夫等>

- 強く美しい稲姿を目指し、7月中旬を目安に強めの中干しを行うことで、台風等による倒伏被害も軽微となり、粒ぞろいのいい米が生産できる。

<現場の課題>

- 除草作業を中心に重労働が多く、後継者が育ちにくい。

<今後の対応>

- 自然農法による高品質な酒米の価値を理解いただける実需者へ、高級酒用原料として販売拡大。
- 自然農法に取り組む後継者の育成及び技術支援。
- 乗用型水田除草機を活用した除草作業の省力化。



<基本情報>

所在地：熊本県宇城市

(平成28年度環境保全型農業推進コンクール 農林水産大臣賞受賞)

<農場概要>

- 経営面積：約5haで、水稻、野菜類（約20品目）を栽培（米、生姜、里芋、セロリー、その他露地野菜）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和45年就農。当初は慣行栽培をしていたが、農薬の使用による身体面への負担を感じたこと。また、農薬の多投入や農産物の外観品質への評価に疑問を持ち始め、有機農業実践者に出会い昭和50年代始めから有機農業に取り組む。
- 平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得。

<理念>

- いのち・暮らし・環境を守る有機農業を推進し、子や孫、次世代につなぐ。

<販売について>

- 有機農産物と一目でわかるように、販売するすべての農産物に有機JAS、グリーン農業表示マーク（熊本県のグリーン農業制度）、自社ロゴマークを1枚のシールにして貼付し販売。
- JA系の直売所、くまもと有機の会（生産者主体の産直を行う組織）及び九州内の生協に出荷。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

● 病害虫対策

作物の輪作で病害虫の発生を極力少なくする体系づくり。
太陽熱養生処理で土壌の病害虫殺菌処理。

● 雑草対策

い草、稲ワラ、黒ポリフィルムによるマルチングや、太陽熱養生処理で除草の労力を軽減。

● 土づくり

緑肥（ソルゴー）をすき込むことにより、土壌環境を改善。
肥料は、有機JASに対応したボカシを使用。

<現場の課題>

- シカによる食害の増加。設置している侵入防止柵が低いいため、より高い柵への変更が必要。

<今後の対応>

- 更なる有機農業の普及を図り有機農産物の安全供給と面的広がりを目指すため、ネットワーク化、新規就農者の育成に取り組む。
- 地域の特産物である「生姜」加工品の生産・販売を拡大する。



【お問合せ先】 TEL.0964-43-0234

メール yuk_morita@kuc.biglobe.ne.jp

<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡御船町

<農場概要> 75ha(水稲、にんじん、ばれいしょ、など約100品目)

うち有機 J A S 認証30ha(水稲、にんじん、ばれいしょなど)、構成員50名

<理念>

自然と共に生きる丁寧な暮らしを ひとり一人が実践し、「有機農業生産者、加工者、流通事業者消費者が共に支え合い、自分自身、家族、友人、知人に食べて欲しいものを作り販売すること」をテーマにし、熊本の「有機の基地」をめざして日々の活動に取り組んでまいります。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和51年に有機農業生産者と消費者を結ぶ専門機関「株式会社熊本有機農産流通センター」を設立。その後、有機農業を広く伝える目的で昭和60年に本会が発足。

<有機 J A S 認証に取り組むきっかけ>

- 顔の見えない消費者へのアピールには第三者が認定した有機 J A S 認証が不可欠のため取得。

<主な販売先>

- 消費者への直接販売（季節の野菜セット）
- 生協



【お問合せ先】 TEL.096-281-7355

HP <https://kumamotoyukinokai.jimdo.com/>

直売所：オーガニックはあと（熊本市東区湖東2-1-3）

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 圃場ごとに土壌分析及び生産物の栄養成分分析を実施し圃場にあった土づくりにより、健全な作物の栽培（セルロースの強化）ができ、病害虫耐性も強くなる。また、「太陽熱養生処理」により土壌物理性の改善（土壌の団粒化・水はけ改善）、秀品率の向上、生物性の改善による病原菌抑制及び雑草の種を熱等で死滅させることで除草作業を殆どしなくてよくなる。
- 人参の慣行栽培では単収3.5トン、圃場にあった土づくりを実施した場合、単収6トン程の収穫でき、栄養成分では糖度が向上し、硝酸（エグミ）が減少しおいしい農産物が出来る。

<苦労しているところ>

- 異常気象による影響。
- イノシシ・シカ等による鳥獣被害。

<今後の対応>

- 10年後を見据えて生産量確保にむけ、新規就農者・転換者に対して研修会の開催。

<基本情報>

所在地：大分県宇佐市

<農場概要>

- 水稲17ha（すべて有機栽培。うち3haで有機JAS認証を取得）
- 従業員数：7名
- 世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域の豊かな環境を保全するために、環境に負荷をかけない自然に沿った米作りに取り組んでいる。

しあわせ米®

有限会社宇佐本百姓

農薬はつかわない
肥料はつかわない
土を大切におもい
もみ種は自家採種



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 先代が有機農業を手がけていた頃、台風で周囲の慣行栽培の稲は全て倒伏したが、有機栽培の稲は被害はなかった事など有機栽培の特質を見聞きし、有機農業に関心を持った。
- 有機栽培での販売価格等について、将来を見据えて試算、経営が成り立つことを確信し、平成15年に就農。
- **平成20年（2008年）有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売する商品は、農薬・肥料を使用しない自然農法で栽培したお米を『しあわせ米』として販売。
- 販売先は、会員を中心に、オーガニックEXPO等のイベントでのマッチング（人脈形成等）を通じて、レストラン等へも販売。
- 販売価格は**圃場の有機栽培経過年数に応じて差をつけている。**
- 令和7年7月「みどり認定」取得。10月「みえるらべる」に登録。温室効果ガス削減の取組と生物多様性保全の取組で星3つを取得。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
有機圃場には天敵となる昆虫や微生物がいるためか、ウンカやいもち病などは圃場には入って来ない。
- **雑草対策**
代掻きの作業度合いをセンサーで検知し、モニターで確認して均平を確保。「あめんぼ号」（水田除草機）で田植え後1週間ごとに3回除草。
- **土づくり**
稲藁や自然の堆肥を使用、土を清浄化することを心がけている。

<苦労しているところ>

- 圃場が粘土質のため固く、耕起の時期と方法に苦労する。
- 規模拡大で慣行栽培から転換した圃場は作土が浅く、深耕等で有機栽培に適した圃場にするのに苦労する。
- 地域のJAは有機農業への関心が薄いこともあり、乾燥調製から販売まで自社で行っている。

<今後の展望>

- 将来的には地域の50haの圃場を、若手3～4人で有機栽培に取り組むことも検討したい。



【お問合せ先】TEL.0978-33-3265

ホームページ <https://siawasemai.com>

<基本情報>

所在地：大分県豊後大野市（緒方町）

<農場概要>

- 面積：3.5ha(うち有機：3.5ha)
- 従業員：2人
- 栽培品目：水稻、麦・大豆、野菜、かぼす、養豚



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 父が有機農業を営んでいたことからその影響もあり、有機農業等を学べる高校へ進学。卒業後、大学で養豚を学び家業に就き、令和5年養豚を始める。
- 令和7年1月、事業継承。
- 平成19年(2007年)に有機JAS認証を取得。

<販売について>

- 有機食品等を取り扱う小売店や道の駅等での委託販売や宅配に対応。
- 加工品（かぼす果汁、黒米、黒米入りあまざけ等）のインターネット販売。
- オーガニックマーケットなど、直接消費者の方とお話できる場で販売。



手押し除草機

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

● 病害虫対策

水稻は、みのる式のポット成苗システムにより、稲の能力を最大限引き出す。野菜は、入植当初は全滅することもあったが、徐々に圃場の生態系バランスが良くなり、5年～10年で病虫害のない土壌環境ができてきた。

● 雑草対策

合鴨農法、手押し除草機
あめんぼ号（水田株間除草機）
圃場内の雑草を草マルチとして利用



あめんぼ号

● 土づくり

米ぬか、おから、油かす、落葉や畦草を堆肥化しボカシ肥料として施用。また、豚糞を堆肥として利用することで「循環型農業」の輪がさらに大きく広がる。

<苦労しているところ>

- 自然相手なので、病害虫・除草対策と土づくりは永遠のテーマ。
- 除草対策の合鴨が鳶(トビ)やカラスによる被害を受けている。
- 圃場が分散しているので、農作業や見回り等の手間が掛かる。

<今後の対応>

- 慣行栽培に負けないくらい、安心して食べられる美味しい農産物を栽培する。養豚の規模を拡大し、有機畜産物の認証取得も視野に入れていきたい。



【お問合せ先】

TEL・FAX 0974-42-3501

ホームページ <https://ujamaa-farm.com>

<基本情報>

所在地：大分県佐伯市

<農場概要>

- 面積：約1ha（すべて有機）
- 栽培品目：米、露地野菜（にんじん、玉ねぎ等40種類以上）
採卵鶏11羽



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 園主の 豎山 剛さんは、東京の企業で働いていた30歳過ぎの頃、福岡正信氏等の著作を読み、消費するだけの生活、食べることに疑問を持ち始め、有機農業を志す。
- 有機農業を実践するため、34歳の時、企業を退職して鹿児島県いちき串木野市に移住。JAへ勤める傍ら、米、麦、露地野菜の栽培を開始（約1ha）。自然卵養鶏で150羽を飼養していたが、台風により鶏舎が崩壊。
- 奥様の大分県への転勤に伴い、再移住を決意。大分県内で移住先を探す中、数々の縁が繋がりに、平成25年（2013年）に大分県佐伯市に再移住。
- **令和4年（2022年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 米、野菜を佐伯市学校給食に提供。
- 個人販売、マルシェへの出店。
- 生産された有機野菜は、奥様が経営するカフェでも提供。



【お問合せ先】

オーガニックカフェ たら・ぷれた（奥様経営のカフェ）

Instagram : [@terapuleta](https://www.instagram.com/terapuleta)

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
太陽熱養生処理、作付けする場所や時期の分散、連作を避ける。
- **雑草対策**
草が小さいうちに管理機で中耕を行う等、こまめに物理的防除を実施。
- **土づくり**
鶏糞を主体に、稲わら、米ぬか、もみ殻燻炭、竹炭等を自らブレンドした堆肥を使用。

<苦労しているところ>

- 管理機等、機械が小型であり、労力、時間共に多く必要なところ。

<今後の展開>

有機栽培による作物の安全性はもちろんのこと、品質を保ったまま、美味しく、見た目の美しさも追及していきたい。



<基本情報>

所在地：宮崎県えびの市

<農場概要>

- 面積：約20ha（うち有機JAS認証取得：約3.5ha）
- 従業員：17人（代表役員含む）
- 栽培品目：主食用米、オクラ、カボチャ、ピーマン、ごぼう、キャベツ、ほうれん草、じゃがいも、ぶどう、イチジク、柿、栗、きんかん等



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 会長の本坊照夫氏が、昭和46年に就農した際、農薬使用が原因と思われる体調不良に陥った経験から、徐々に取組を進め、**昭和58年から本格的に開始。**

<販売について>

- 自宅に隣接する直売所「笑美農(えびの)市場」で、自社生産の米・野菜のほか、味噌、梅干し、あくまき等の加工品も販売。また、平成30年5月に、**6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定を受け**、玄米コーヒーを開発・販売。
- 道の駅えびの、宮崎県内のスーパー等に、真空パックした米（商品名「笑顔米」）、生鮮野菜、加工品を納品するとともに、「笑顔米」等をインターネットを通じ直接販売。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
土づくりをしっかり行うことが一番大切。土がよくなると植物体が強くなるため、大きな被害が発生することはない。
- **雑草対策**
雑草がまだ小さいうちに、手押し型管理機や乗用管理機による早めの畝間中耕を行っている。
- **土づくり**
牛糞に、籾殻、海藻、木炭、カニ殻、竹パウダーなどを混合し、2か月間発酵させた中熟(中心温度40℃程度)堆肥を圃場に撒き、1か月程度土になじませる。

<苦労しているところ>

- 自社農産物の販売先の確保のほか、除草作業(全作業時間の約半分を占める)、長年試行錯誤を重ねてきた土づくり。
- 有機栽培を志す農業者の育成方法を確立していくこと。

<今後の対応>

- 畜産農家と連携してえびの市一体となり有機農業を推進していくことや、県内の業者と連携して有機農産物を原料とした加工品（地ビール、甘酒等）の開発・販売。



【お問合せ先】TEL. 0984-33-1610

ホームページ：<https://ebinoitiba.com/>

<基本情報>

所在地：宮崎県児湯郡新富町

<農場概要>

- 面積：18ha（うち有機JAS認証取得6.5ha）
- 従業員：14名（代表役員含め5名、パート9名）
- 栽培品目：米、にんじん



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 18歳の時、両親の後を継いで営農開始し、30年ほどは慣行栽培で米及びかんしょ等を生産。このままの営農を継続するか、持続可能な農業を目指していくか悩んだ末、有機栽培を行うこととし、平成20年（2008年）に有機JAS認証取得。

<販売について>

- 有機JAS認定ほ場で生産した農産物は、関東、関西を中心に、九州・県内へも出荷。
- 令和3年8月に有機米を台湾へ輸出したところ、即完売。令和4年以降、台湾やシンガポールでの新富町物産展や食のイベントに参加。

有機米の商品名「宮本」は代表者宮本氏から命名→



<飲食事業について>

- 有機農産物は全て関東・関西へ出荷していたため、「どこで買えるのか」と地元の要望があったことから、令和3年に「有機米農家おにぎり宮本」を開店。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**
米のいもち病とカメ虫防除には、有機JASで使用が認められた天然鉱石を使用。
- **雑草対策**
代かきを3回行い、その後、深水管理することで雑草を抑制。冬作を行っていないほ場は、複数回耕耘し、次年度の雑草抑制。
- **土づくり**
有機ほ場は全て水田。野菜と米の輪作（2年3作）体系で、稲わらをすき込むことにより、ほ場に有機物還元。たい肥は自作でなく、有機JASで使用が認められた豚ふんを施用。

<苦労したところ>

- 有機栽培を始めた頃は、指導者もおらず栽培技術も未熟で、収量・品質が安定せず収入が少なく、営農継続困難となった。農業をやめようと考えていた頃、金融機関から融資を受けることが出来、営農を継続するうちに技術確立し、収入が安定し、現在に至る。



【お問合せ先】TEL. 090-3609-6496

ホームページ：<https://www.organicfarmzero.com/>

<基本情報>

所在地：鹿児島県日置市東市来町

<農場概要>

- 6 haの農場でにんじん、だいこん、さつまいも（紫いも）、水稻（古代米、ヒノヒカリ）、キウイフルーツを生産。
- 有機JAS認定を取得。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 農薬等の影響で体調不良となる農家が、少なくないことを聞いたことがきっかけ。有限会社かごしま有機生産組合で有機農業の研修を受け、有機農業に従事。
- 平成29年（2017年）に有機JAS認証を取得。

<販売について>

- 9割は、有限会社かごしま有機生産組合に出荷し、地域の物産館（日置市こけけ特産品販売所）にも出荷。その他、ふるさと納税返礼品、SNS等を通じて直接販売。
- キウイフルーツは、地球畑（鹿児島市）に今年から販売。
- だいこん、にんじんは、東市来小・中学校の給食用にも納品。



<作物の多角化について>

- だいこん等の収穫作業は、重労働なので、年齢を重ねても有機農業に取り組めるように、キウイフルーツ、カンキツ類の栽培にも取り組む。キウイフルーツは、今年から出荷。
- 夏場の収入を確保するために、切り餅の製造・販売を検討中。

【お問合せ先】TEL. 080-3960-3622

ジャラン農園 Jarun Farm | Facebook



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

● 病害虫対策

農薬は、一切使わず、土づくりをしっかりと行うことで病害虫の発生は減少。

また、キウイフルーツ、カンキツは、カミキリムシの食害（木くず）を発見するため、栽培木の株元の除草を徹底。

● 雑草対策

畝間も含めてマルチ被覆している。特にマルチ穴の株元の除草に苦労するので、雑草が小さいうちに手取りを徹底。冬にんじんは、夏に透明マルチ被覆による太陽熱土壤消毒で雑草を抑制。水稻は、ジャンボタニシが除草。

● 土づくり

野菜・いもは、栽培前に緑肥を作付け・すき込みを実施。また、畑の状態を観察して、鶏糞を必要な量、散布。

<苦労しているところ>

- さつまいもの害虫（コガネムシの幼虫）による食害。
- 気候変動による植付け時期の見極め。

<今後の展開>

- 機械が使えない狭い水田で、今年から冬期湛水、直播等の自然栽培農法の実証に取り組む予定。これにより、手間・コストを掛けずにコメの生産を行うとともに、地域の農地を守る。

<基本情報>

所在地：鹿児島県出水市下鯖町

<農場概要>

- 面積：有機栽培水稻14ha
(うち有機JAS認証：約7ha)
- 栽培品目：米、麦、大豆、玉ねぎ



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和58年（1983年）、農薬を多用する農業に疑問を感じ、農薬を減らしたいとの思いから、同じく有機農法を目指す仲間たちと一緒に有機農法を学び、その延長で**アイガモ農法**も開始。

<販売について>

- 当園で収穫した米は、商品名「合鴨米」「さわださんちのお米です」として、それぞれ、白米、玄米、分付米として販売。
- 平成29年（2017年）に有機JAS認証工場（はる菜）を整備し、あくまき、餅、山菜おこわ、米粉パンなどの加工食品の製造販売を開始。
- 有機あくまきは、鹿児島の竹の皮を天日に干して使用。木灰のあく独特の風味が特徴。有機JASマーク付きの自家製有機きな粉をまぶして販売。

有機あくまき
(有機きなこ添え)



有機JAS認証芋焼酎
(Hi-Five)



<新たな販売先として>

- 令和7年産の有機栽培米は、阿久根市の大石酒造において、有機JAS認証芋焼酎の原料として使用。

【お問合せ先】TEL.0996-67-0911

会社ホームページ：<https://sawadanouen.com/>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病虫害対策、雑草対策（アイガモ農法）**
当園では、アイガモ農法で、無農薬栽培を実施。アイガモ農法とは、水田にアイガモを放すことで、害虫や雑草を食べてもらい、農薬や除草剤がなくても稲を育てられる農法。アイガモは、ふ化0日のヒナから育て、14日齢で水田に放ち、60日齢ごろまで活躍。
- **土づくり**
当園では、稲わらと冬草をすき込み、肥料は菜種油粕とグアノを使用。有機肥料によって、土壤微生物の活性化により、土の団粒構造が形成され、「ふかふかの土」「肥料持ちの良い土」へ変化し、農作物が生長。

【アイガモ農法】



<苦労しているところ>

- 雑草対策。
- 夏場の暑さ対策。
- 夏場の高温等による減収。

<今後の展開>

- 有機農業を継続し、安定的に有機栽培米を消費者に提供。
- 仲間を増やして連携し、有機農業の更なる普及を目指す。